





6 林 業

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 林野火災について</p> <p>① 林野火災の発生時期</p> <p>② 林野火災と気象の関係</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○林野火災について ○林野火災の消火と復旧について ○林野火災の防止について <p>国内における林野火災は、降水量が少なく空気が乾燥し、強風が吹く2月から4月の春先に多く発生している。この原因としては、この時期に火入れが行われることや、林業作業やハイキングなどで入山者が増加することによる火の不始末等が考えられる。</p> <p>林野庁が発表した林野火災の月別件数（平成27～令和元年度平均）は図1のとおりで、3～5月の間に発生する林野火災の発生件数が年間の54%を占めている。</p> <p>愛媛県の林野火災の月別件数（平成27～令和元年度合計）も、図2のとおり、全国と同様な傾向を示している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="475 1149 922 1462"> <p>図1 全国の月別林野火災件数</p> </div> <div data-bbox="938 1149 1385 1462"> <p>図2 愛媛県の月別林野火災件数</p> </div> </div> <p>気象は、林野火災の発生・拡大に大きく影響する。特に深い関係を持つのは、降水・湿度・風・日射の4種である。</p> <p>[降水]</p> <p>降水により可燃物は含水量を増し、火災の発生・拡大を防止するとともに、最も効果的な消火剤でもある。無降雨期間が長く続くと、地表可燃物の含水率は20%以下となり、着火しやすい状態になる。</p> <p>[相対湿度]</p> <p>湿度は、落葉等の可燃物の乾燥や火災の延焼と関係がある。相対湿度が60～50%の時の延焼速度は遅いが、相対湿度が40～30%になると延焼速度は速くなる。</p>

項 目	作 業 内 容
<p>(2) 林野火災の 消火と復旧 ついて</p> <p>①消火</p> <p>②火災跡地の 復旧</p>	<p>[風速] 風速の大小は森林の可燃物の乾燥を左右し、火災の発生・延焼・飛火などの動態にも大きな影響を及ぼす。谷から山頂に向かって吹き上げる風は酸素の供給源となり、火災時の熱気流と合わさって火の延焼速度を速め、非常に危険である。</p> <p>[日射・日照] 日射は可燃物の乾燥と関係が深く、落葉樹林は常緑樹林に比べ、落葉期林床に直射日光が届くため乾燥しやすく、燃えやすい状態となる。 このことから、気象台から発せられる気象情報や火災気象通報にも注意する必要がある。</p> <p>林野火災では、水利条件が悪い場合が多く、最も有効な注水による消火が難しい場合が多いため、対応が遅れると貴重な森林資源を大量に焼失するばかりでなく、家屋等に被害が及ぶことや市町村境、都府県境を越えて拡大することもある。 このため、場合によっては、地上消火と空中消火を組み合わせるなど広域対応となる場合もあり、消火は非常に難しく危険であり、体力の消耗も激しい。</p> <p>林野火災の被害が甚大になると、林地の条件次第では森林の再生が難しくなる。これを復旧するためには、多額の費用と多くの労力、長い時間が必要となる（写真1）。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>火災の様子（H20.8.25）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>火災直後の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>山腹緑化工の取組み</p> </div> </div>

項 目	作 業 内 容
<p>(3) 林野火災の防止について</p> <p>① 林野火災の原因</p> <p>② 林野火災の防止について</p>	<div style="text-align: center;">  <p>航空実播工 H21.7の全景 H26.7の全景</p> <p>写真1 大規模林野火災と火災跡地の復旧状況</p> </div> <p>令和5年度の全国の林野火災件数は1,299件で、その出火原因は「たき火」によるものが416件(32.0%)と最も多く、次いで「火入れ」247件(19.0%)、「放火の疑い」98件(7.5%)の順となっている(消防庁 令和6年度消防白書)。</p> <p>林野火災の原因は、前述のとおり人為的なものがほとんどである。森林利用者1人1人が、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 枯れ草等のある火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと ・ たき火等火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること ・ 气象台等から発せられる気象情報や火災気象通報に気をつけ強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと ・ 喫煙は指定された場所で行い、吸い殻は投げ捨てしないこと ・ 林業関係事業者は、日頃から作業者に注意喚起と火気管理の徹底について指導をすること <p>など、出火防止の徹底が何よりも重要である。 火災が発生した場合は速やかに第1報を入れて下さい。</p>

(作成 林業研究センター)